


 書評

Thomas R Browne, Gregory L Holmes 著, 松浦雅人 訳 てんかんハンドブック (第2版)

小島卓也

本書は Thomas R Browne と Gregory L Holmes の『てんかんハンドブック』の改訂版である。まず読んでみて、コンパクトな割には内容がきわめて充実して最新の情報を得られること、しかも必要なことが過不足なく系統的に示され、特に治療についての記載が充実して、臨床実践に役立つようになっていることが印象的である。筆者の豊富な臨床経験と研究者としてのてんかんについての豊富な知識が融合し、使用する立場を十分考慮したすばらしい本になっている。

てんかん症候分類が 2001 年の国際分類を用いている点も特徴である。この分類は膨大で複雑であり、まだ公的に承認されていないが、これまでの分類に取り入れられていないいくつかの新しい症候群が記載されているので、取り上げたという。そしててんかんを発症年齢で分ける方法を採用している。特定の患者の鑑別診断を容易にし、特定の年齢層に想定される症候群を全体的に把握するのに役立っており、使用してみて便利であり、新鮮に感じられる。

てんかんの遺伝に関する記述が充実している。この数年間で遺伝子が同定されたてんかん症候群の一覧が示されている。熱性けいれんプラスをもつ全般てんかん、常染色体優性前頭葉夜間てんかん、聴覚症状を伴う常染色体優性部

分てんかんなどが詳しく記載されていて、てんかんを専門的に診ている医師にとっても勉強になる。また、新しい抗てんかん薬に関する記述が充実している。しかし、これらの新しい抗てんかん薬 gabapentin, lamotrigine, levetiracetam, oxcarbazepine, tiagabine, topiramate などは世界中で使用されているのに日本で認可されていない。このことは、日本のてんかん患者が有効な新薬の恩恵に浴することができないことを意味しており、誠に不幸なことである。新薬開発のシステムに大きな欠陥があることを最も顕著に示している。訳者はてんかん専門医であり大変わかりやすく、読みやすく訳しており、原著のすばらしさを引き立てている。

いずれにしても、てんかんに関する豊富な情報を得ることができ、日常臨床で診察室の机において必要に応じて手にとって調べるには好適な本ということができる。てんかん患者を診る機会のある医師は必ず備えるべき本ということができよう。

(日本大学医学部精神神経科学教室教授)

● A5 判変型 324 頁 2004 定価 4,620 円 (本体 4,400 円 + 税) メディカル・サイエンス・インターナショナル刊